



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：大統領選挙の結果と展望

2014年6月3日、シリアの大統領選挙が実施され、4日の開票作業の結果、現職のバッシヤール・アサド大統領が当選した。今般の選挙は、2012年の憲法改正を受け3名の候補によって争われた。選挙結果と今後の展望については以下の通り。

**選挙結果**

バッシヤール・アサド：1031万9732票（当選。得票率88.7%）

ハサーン・ヌーリー：50万279票（得票率4.3%）

マーヒル・ハジャール：37万2301票（得票率3.2%）

無効票：44万2108票（3.8%）

有権者登録をした者の総数は1584万5575人。投票した者は1163万4412人（投票率73.42%）。なお、有権者数、投票数にはシリア国外在住者も含まれ、在外投票は5月28日に世界の43カ所の在外公館で行われた。また、シリアの報道機関は、在外投票が実施できなかった諸国から投票のためにシリアを訪れた訪問団について多数報じた。

**展望**

今般の選挙結果については、選挙実施前から欧米諸国や反体制派は選挙を認めないと表明したが、シリア政府やこれを支持する諸国は大統領選挙をシリア紛争解決に向けた重要な一步として、非難を意に介さなかった。すなわち、アサド大統領の当選は当初から予想されたことであると共に、政府側の勝勢を可視化する象徴的な行為として選挙が行われたのである。欧米諸国・反体制派はアサド大統領の当選を認めないと主張しているものの、この主張を実現する具体策を持たない。実際、反体制派は選挙期間中住宅地を砲撃するなどしていたずらに民間人を殺傷したが、選挙過程に打撃を与えるような活動が全くできなかった。

反体制派の敗勢の原因は、反体制派政治組織が内紛を繰り返し機能していないこと、反体制武装勢力が、イスラーム過激派やその他有象無象が入り混じった利権争いに没入していることなどによりシリア人の人心を失ったことである。これは、欧米諸国が多少軍事援助を積みまして挽回できるようなものではない。このため、シリア紛争は今後もアサド政権の勝勢を基調とし、これが既成事実として確立する方向に推移するであろう。

欧米諸国は、EUのアシュトン外交代表が「大統領選挙はシリア紛争解決努力を害する。シリア政府に、真の政治交渉を再開するよう呼びかける」との声明を発表した。しかし、欧米諸国の側には、アサド政権を打倒した後に事態を收拾する具体策を持たず、アサド政権打倒の展望すらない。それ故、シリアの現場での紛争の展開からみると今や現実離れとも言うべき「アサ

ド政権拒否」に固執する態度こそが、実は交渉を通じた紛争の解決の障害となっている。

(高岡上席研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799